

ISPO カテゴリー I 取得に向けた取り組み
—第1報—

新潟医療福祉大学義肢装具自支援学科
東江由起夫, 江原義弘, 眞柄彰, 阿部薫,
笹本嘉朝, 須田裕紀, 前田雄, 大沼雅之, 高橋素彦

【はじめに】

日本の義肢装具士教育は、1982年に国立身体障害者リハビリテーションセンター学院義肢装具専門職員養成課程から始まる。その教育プログラムは米国ニューヨーク大学をモデルに作成され、当時の専門職教育の主流を受け3年コースで開設された。また、日本の義肢装具士教育が大学で開始されたのは2006年のことである。以降、本学を含め4つの大学で義肢装具士教育がなされている。しかし、国際義肢装具協会(International Society for Prosthetics & Orthotics: 以下、ISPOと称す)がその教育水準を保証する義肢装具教育機関認定基準のカテゴリー I を取得している大学はない。そこでこうした背景から本学科では、2013年よりISPOのカテゴリー I の取得にむけた取り組みを行っている。本稿ではISPOのカテゴリー I について説明し、その取り組みの進捗を報告する。

【ISPOの役割と目的】

ISPOは、義肢装具および補助器具等を必要とする人の治療の促進、ADLの向上とQOLの向上を目的に1970年に設立された非政府組織(NGO)で、国連経済社会理事会の特殊諮問資格を持っている。その組織は義肢装具士、整形外科医、リハビリ医、理学療法士、作業療法士、看護師、リハビリ工学士等から構成された世界的な他職種集団組織でもある。現在、世界100カ国以上、3,300人以上の会員が所属し、本部はベルギーのブリュッセルにあり、日本支部は神戸医療福祉専門学校三田校に事務局がある。

【ISPOカテゴリーの概要】

ISPOは世界保健機構(WHO)とともに、世界のどの国の患者や障害者であっても、各国の経済や社会保障制度等に関わりなく一定水準の義肢装具等のサービスが受けられるよう義肢装具教育機関認定基準カテゴリーをつくり、その質を保証している。そのカテゴリーは3つの教育レベルで区分されている(表1)。その中で最高教育レベルに位置づけられているのがカテゴリー I で、4年制の学士を原則とした肢装具士教育である。今回、本学が目ざしているのはこのカテゴリー I である。現在、世界でカテゴリー I を取得している教育機関は16校である。そのうち日本では2013年に神戸医療福祉専門学校三田校(4年制)が取得している。また日本の専門学校教育はカテゴリー II に位置づけられ、職業訓練校教育はカテゴリー III にあたる。

【カテゴリー I の取得までの手続き】

ISPOのカテゴリー I の取得は、図1に示す手続きと流れで進められる。① Letter of intent(意向状)をISPO教育委員会に送る。② Application(申請)を行う。その際、本

表1 ISPO カテゴリー区分

カテゴリー区分(資格)	教育水準/求められるスキルと役割
カテゴリー I (義肢装具士)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学士教育レベル。通常4年間の教育期間。 ◆ 医療スタッフの一員として参加し、評価、処方、義肢装具のデザインに関して積極的に参画でき、患者に対して直接的なケアをすることができる。 ◆ 義肢装具のみならず車いす・シーティングなどの移動機器などにも精通している。 ◆ 患者の治療に直接携わることができる。 ◆ 研究や開発にも参画可能。 ◆ カテゴリー II などの他の義肢装具従事者への教育を行う。
カテゴリー II (義肢装具技能士)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学士教育以下のレベル。通常3年間の教育期間。 ◆ カテゴリー I の義肢装具士が常駐の医療スタッフのメンバーとしていない場合において、義肢装具の評価、処方、デザインに関して参画する。 ◆ 患者の治療に直接携わることができる。
カテゴリー III (義肢装具製作技術者)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 製作技術者。 ◆ カテゴリー I・II 義肢装具士の下、義肢装具の製作を行う。

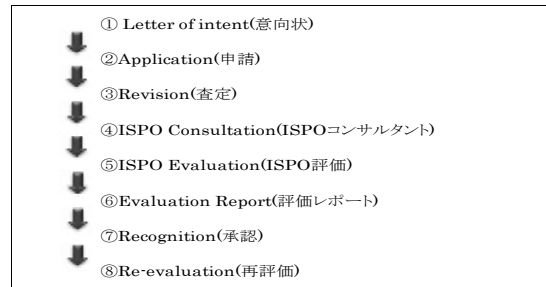


図1 ISPO カテゴリー I 取得の手続きと流れ

大学の概要、本学科カリキュラム、教育プログラム、施設設備、教員履歴学歴等を記載した Self-Study Report を作成する。③ Revision(査定)の実施。提出された Self-Study Report が評価される。④ ISPO Consultation(ISPO コンサルタント)の実施。ISPO より2から3名の査察団が派遣され、第1回目の査察が行われる。初回の費用はISPOが負担し、以降は査察を受ける教育機関が負担する。⑤ ISPO Evaluation(ISPO 評価)。これまでの査察による教育機関としての評価(学校認証)と最終的に学生に実施される試験(個人認証)をもってカテゴリー I の評価がなされる。⑥ Evaluation Report(評価レポート)。⑤が終了した段階で評価レポートが作成され、ISPO 内で採否の判断がなされる。⑦ Recognition(承認)。ISPO の理事会はその判断を受け承認し、申請教育機関はカテゴリー I 認定校となる。⑧ Re-evaluation(再評価)。認定後、カテゴリー I を継続するためには3年に一度再評価を受け、教育の質が保たれていることが条件となる。

【おわりに】

ISPO カテゴリー I 取得の意義は、本学科の義肢装具士教育が国際水準(最高レベル)で実施されていることを示し、また本学科の卒業生が世界のどの国の患者や障害者に対しても、一定水準の知識と技術をもって義肢装具の製作適合サービスを行うことができ、彼らの ADL の向上と QOL の向上を図ることにある。

最後に、本研究は平成 26 年度新潟医療福祉大学学長裁量研究費によって実施した。